

令和6年度「障害児・者のスポーツライフに関する調査」の概要

(1) 調査方法

無記名式のインターネット方式

(2) 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・ 障害児・者の基本情報（障害の種類、障害者手帳の保有状況など）
- ・ 運動・スポーツの実施状況（実施種目、頻度、施設、目的など）
- ・ 運動・スポーツの実施における障害
- ・ 今後行いたいと思う運動・スポーツ
- ・ スポーツクラブや同好会・サークルへの加入
- ・ 過去1年間のスポーツ観戦

(3) 調査対象及び回収結果

インターネット調査会社が保有するリサーチモニタのうち、7歳以上の障害児・者本人または、同居している家族に回答を依頼した。

該当する調査対象者は6,012人であった。回答者のうち、障害のある兄弟、姉妹、第4子以降の子がいる場合は、それぞれ年齢が一番上の者についてのみ、回答を依頼した。都道府県別の回答数は、都道府県別の人口比率に近い回答数となるように収集した。

(4) 調査期間

令和6年12月13日（金）～令和6年12月19日（木）

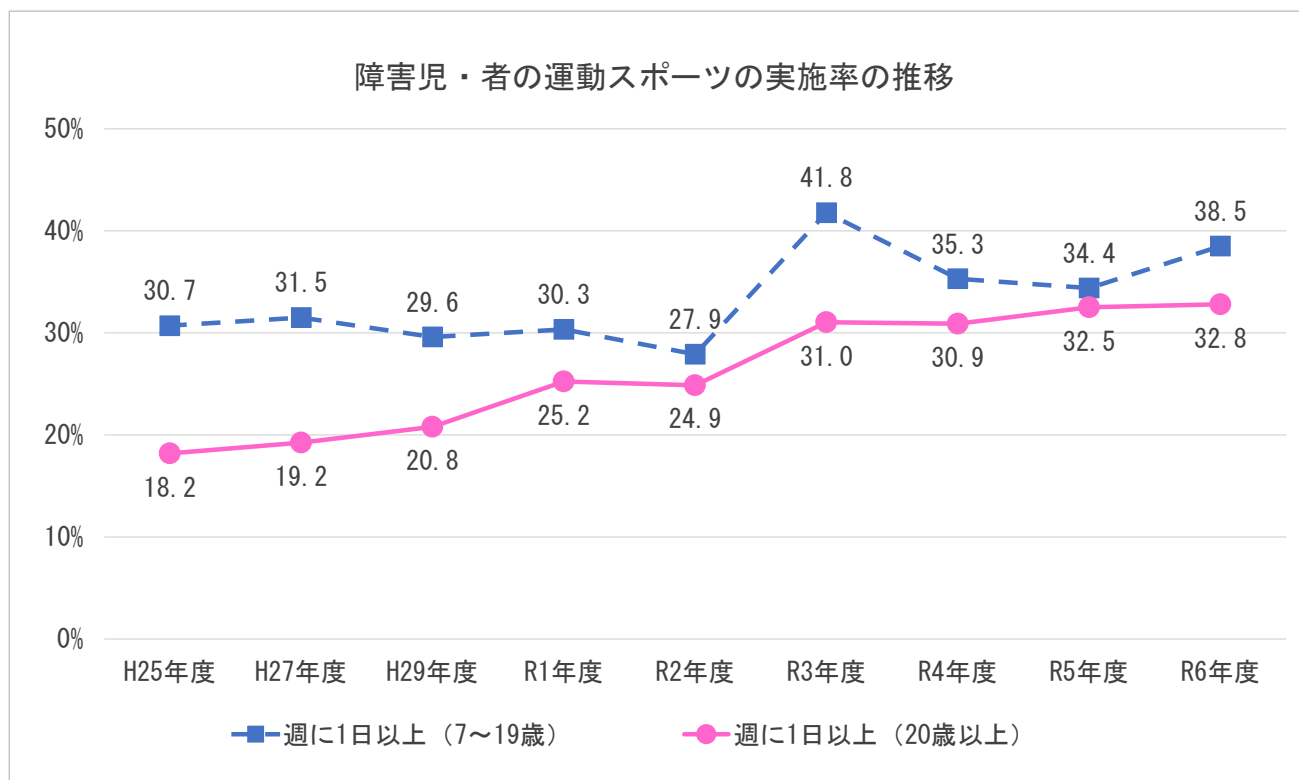
[N=6,012]

性別	男性	3,264	54.3%
	女性	2,710	45.1%
	回答しない	38	0.6%
年齢	7～12歳	238	4.0%
	13～19歳	369	6.1%
	20～29歳	494	8.2%
	30～39歳	716	11.9%
	40～49歳	843	14.0%
	50～64歳	1,683	28.0%
	65～74歳	709	11.8%
	75歳以上	960	16.0%
障害種別 ※複数回答	肢体不自由（車椅子必要）	611	10.2%
	肢体不自由（車椅子不要）	1,588	26.4%
	視覚障害	341	5.7%
	聴覚障害	489	8.1%
	音声・言語・そしゃく 機能障害	216	3.6%
	内部障害	490	8.2%
	知的障害	555	9.2%
	発達障害	916	15.2%
	精神障害	1,686	28.0%
	その他	35	0.6%
福祉サービスの利用 ※複数回答	通所型	1,265	21.0%
	入所型	313	5.2%
	訪問型	444	7.4%
	その他	55	0.9%
	上記のサービスは利用していない	4,132	68.7%

1 障害者の運動・スポーツの実施率

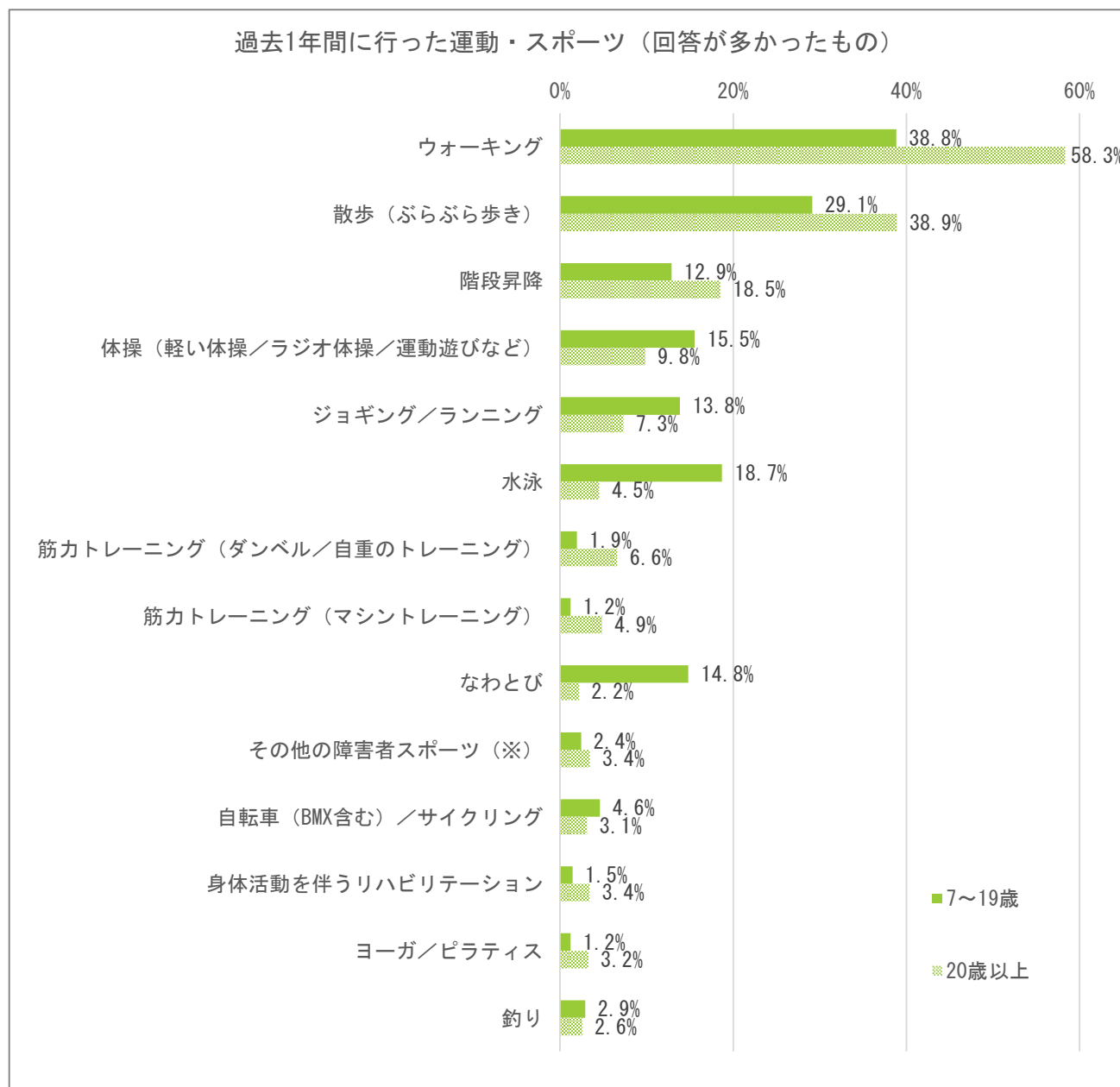
過去1年間に運動・スポーツを行った日数について、7～19歳と20歳以上に分けて集計した。

障害児・者が週1日以上、何らかの運動・スポーツを実施していた割合は、20歳以上では32.8%、7～19歳では38.5%だった。令和5年度と比較すると、週1日以上の実施率は、20歳以上は横ばい、7～19歳は増加となった。



2 過去1年間に実施した運動・スポーツ

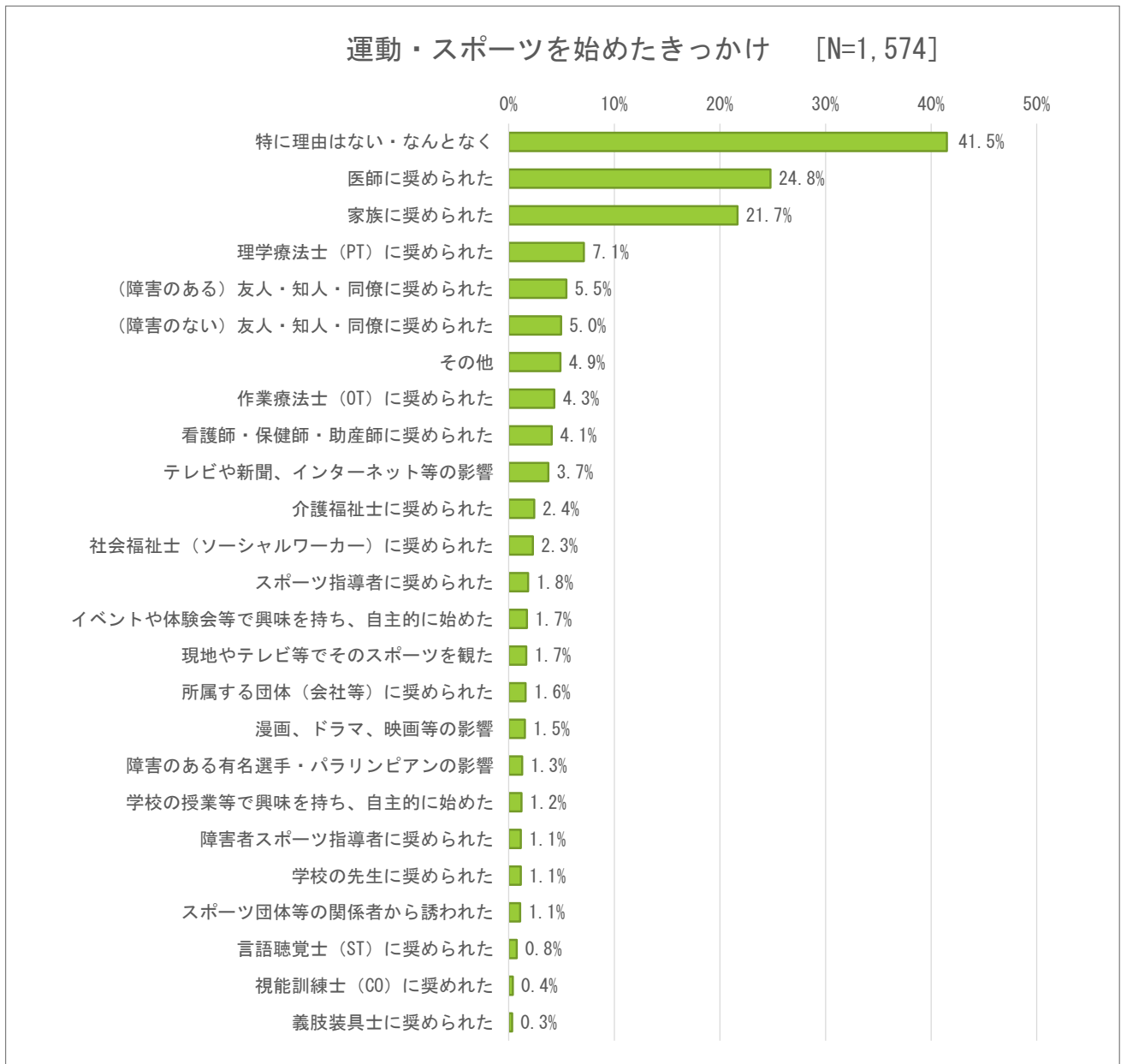
過去1年間に運動・スポーツを実施した種目については、令和5年度と同様に、「ウォーキング」「散歩（ぶらぶら歩き）」の割合が高かった。次いで、20歳以上では「階段昇降」、7～19歳では「水泳」の割合が高かった。



（※）アーチェリー／ボウリング／バドミントン／乗馬／カヌー／自転車競技／射撃／柔道／セーリング／テコンドー／馬術／バドミントン／ボート／アイスホッケー／車いすカーリング／バイアスロン／パワーリフティング／スノーボード／チェアスキー・バイスキー／シットスキー 等

3 運動・スポーツを行うきっかけ

運動・スポーツを行うきっかけは、順位は令和5年度と変わらず、「特に理由はない・なんとなく（41.5%）」、「医師に奨められた（24.8%）」、「家族に奨められた（21.7%）」の順に割合が高かった。

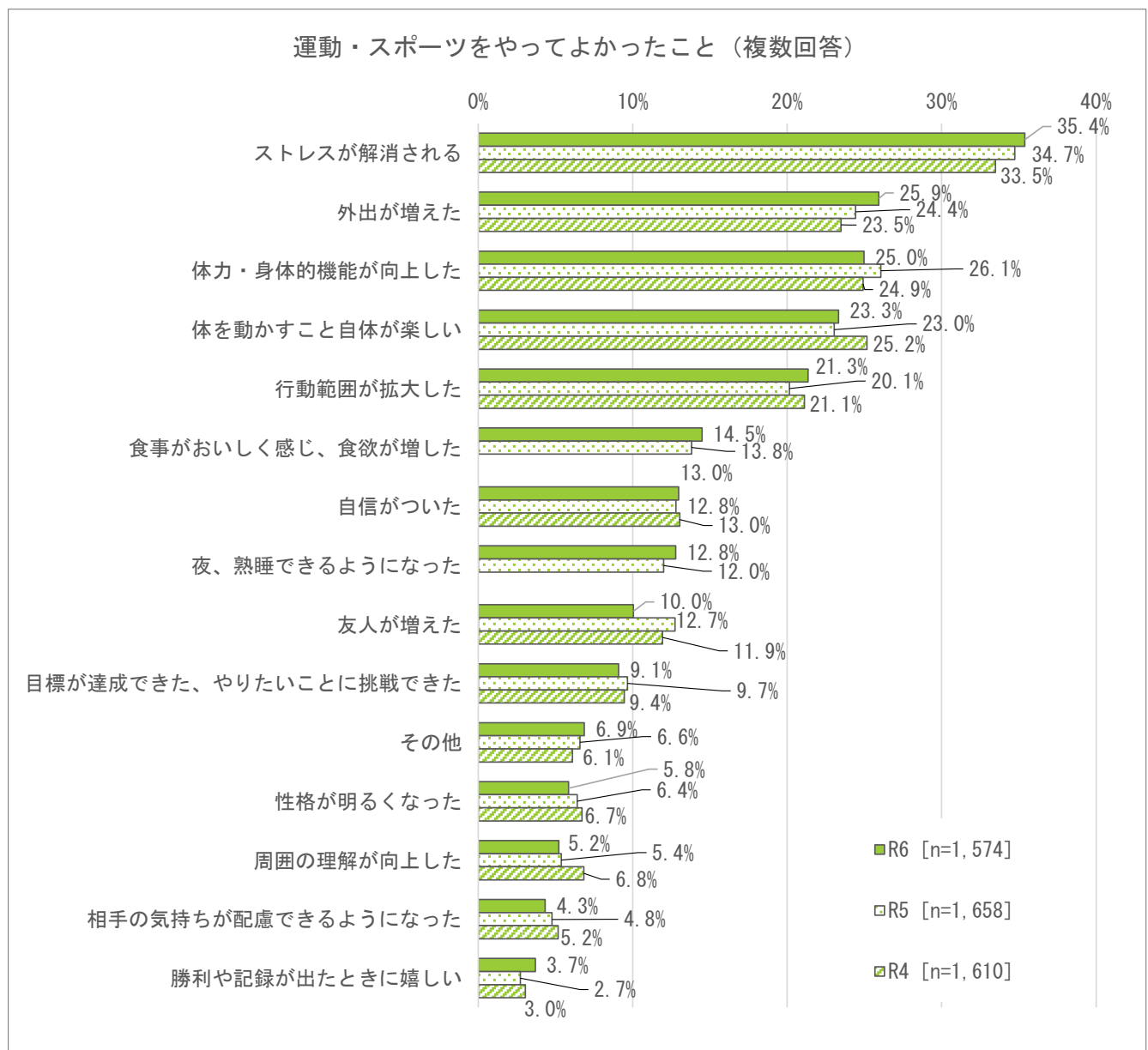


※運動・スポーツへの意識に関わる設問のため、対象を回答者が障害児・者本人の場合のみに限定した。

4 運動・スポーツをやってよかったこと、運動・スポーツを実施しない理由

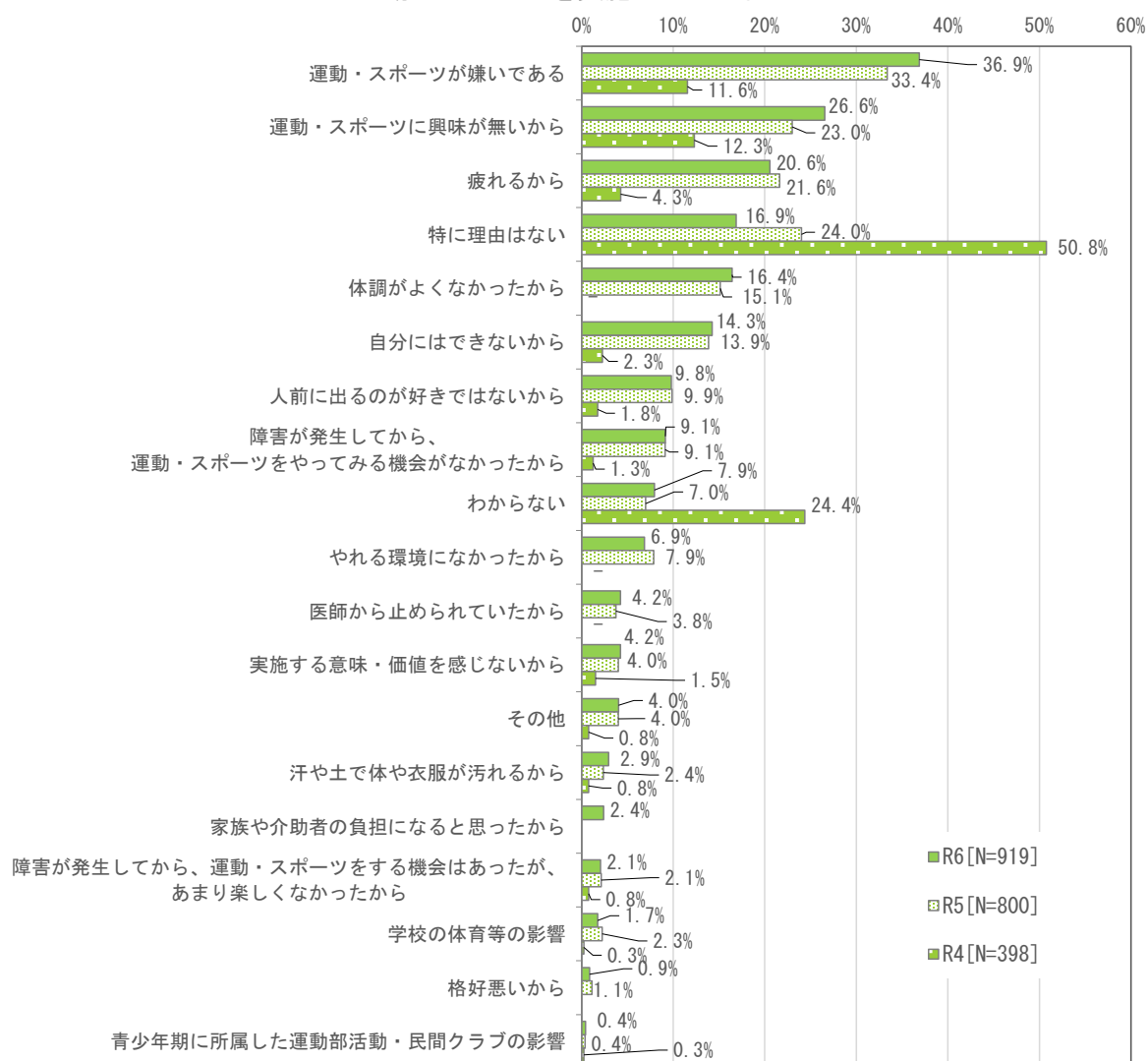
運動・スポーツ実施者が運動・スポーツをやってよかったことの上位は、「ストレスが解消される（35.4%）」、「外出が増えた（25.9%）」、「体力・身体的機能が向上した（25.0%）」、「体を動かすこと自体が楽しい（23.3%）」、「行動範囲が拡大した（21.3%）」と、令和5年度から大きな変動はみられなかった。

運動・スポーツを実施しない理由について、運動・スポーツ非実施者の回答は、「運動・スポーツが嫌いである（36.9%）」、「運動・スポーツに興味が無いから（26.6%）」、「疲れるから（20.6%）」の順となっていた。



※運動・スポーツへの意識に関わる設問のため、対象を回答者が障害児・者本人の場合のみに限定

運動・スポーツを実施しない理由

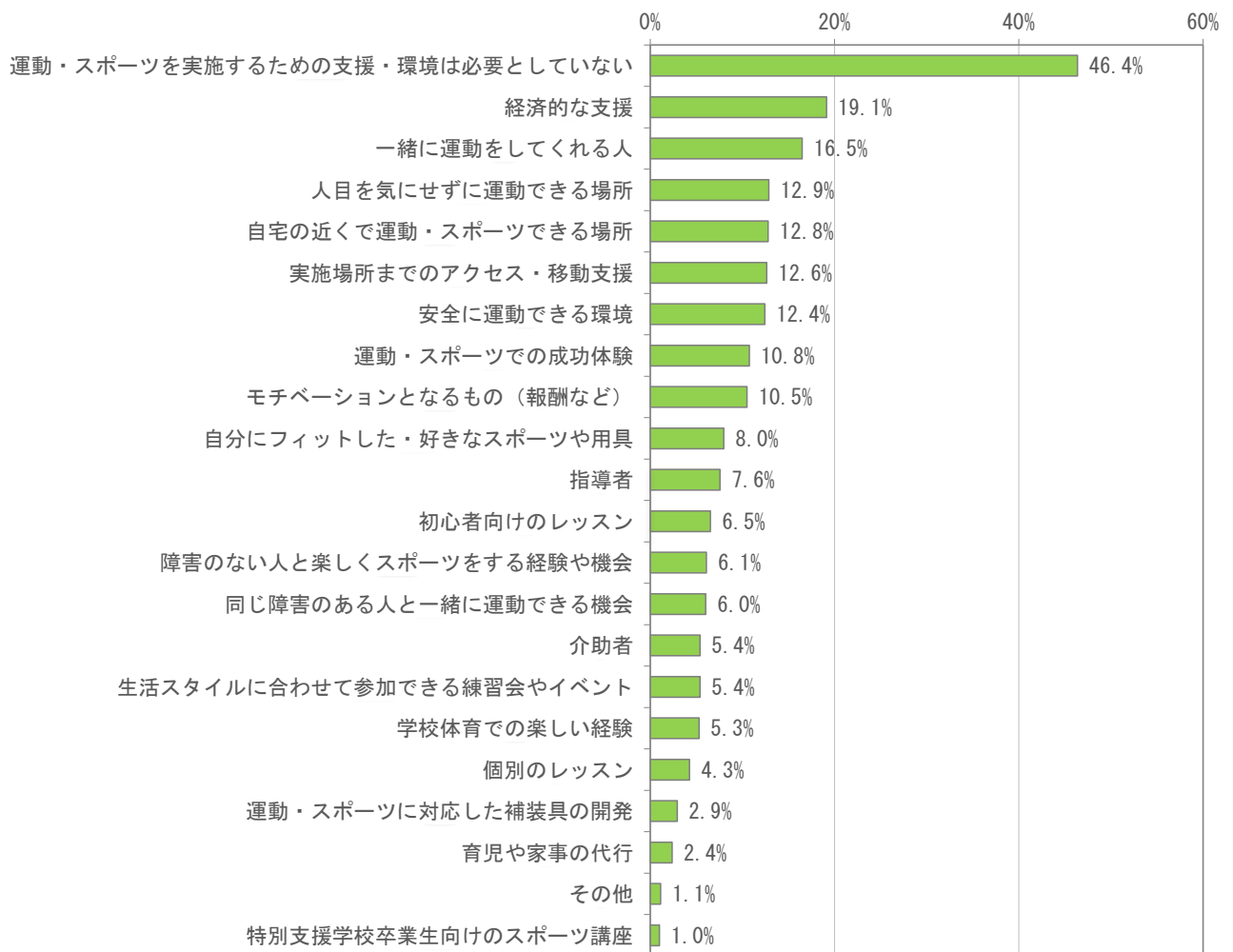


※運動・スポーツへの意識に関わる設問のため、対象を回答者が障害児・者本人の場合のみに限定

5 運動・スポーツをするために必要な支援・環境・経験

過去1年間の運動・スポーツ実施の有無に関わらず、どのような支援・環境・経験があれば、もっと運動・スポーツを実施することができると思うかについての回答は、「支援・環境は必要としていない（46.4%）」が最も多く、次いで、「経済的な支援（19.1%）」、「一緒に運動をしてくれる人（16.5%）」、「人目を気にせずに運動できる場所（12.9%）」の順となっていた。

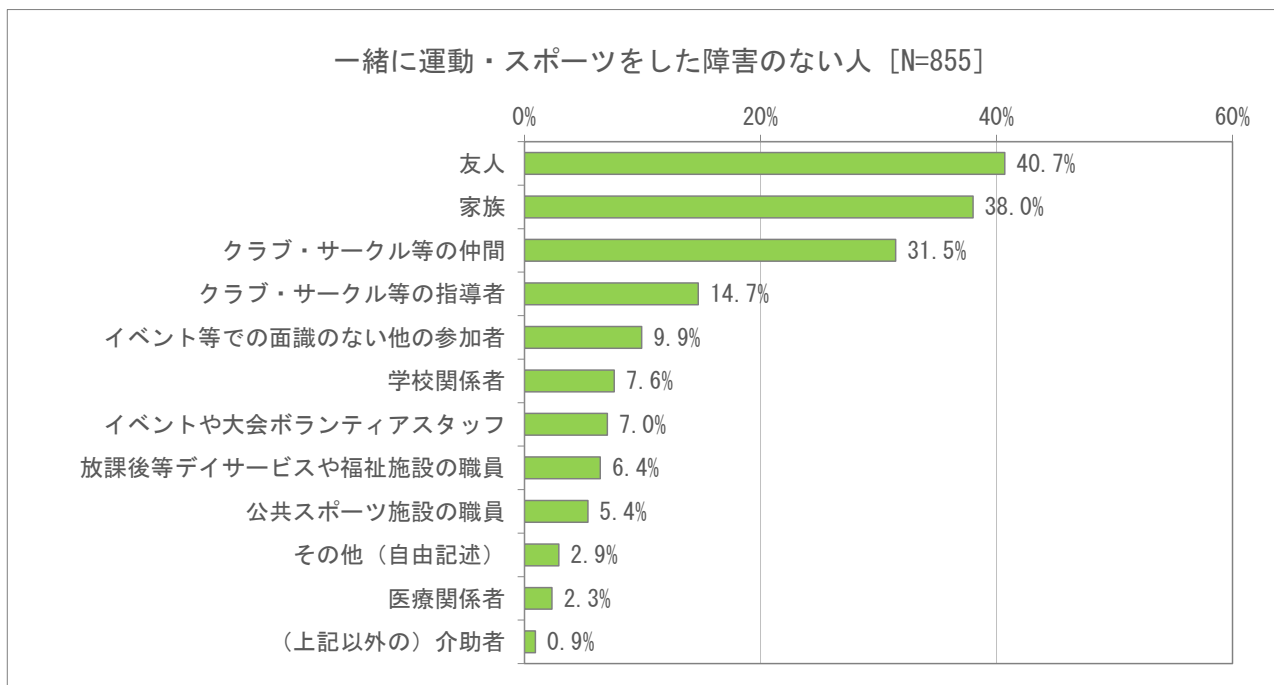
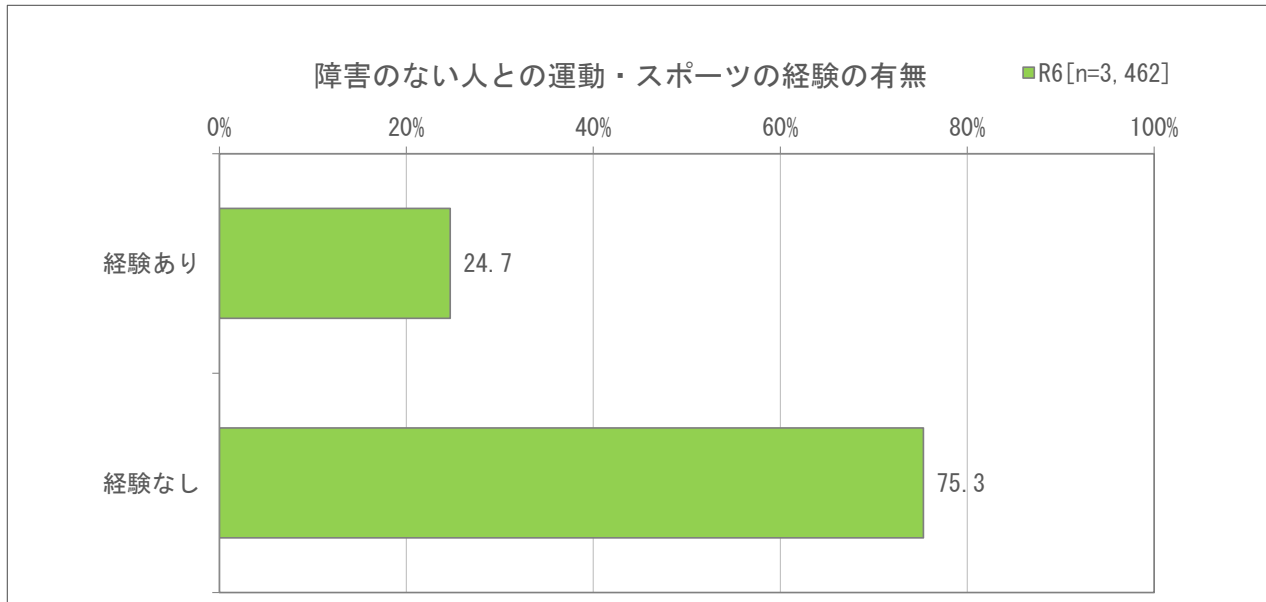
運動・スポーツを実施することにあたって必要とする支援・環境・経験
[N=2,493]



※運動・スポーツへの意識に関わる設問のため、対象を回答者が障害児・者本人の場合のみに限定

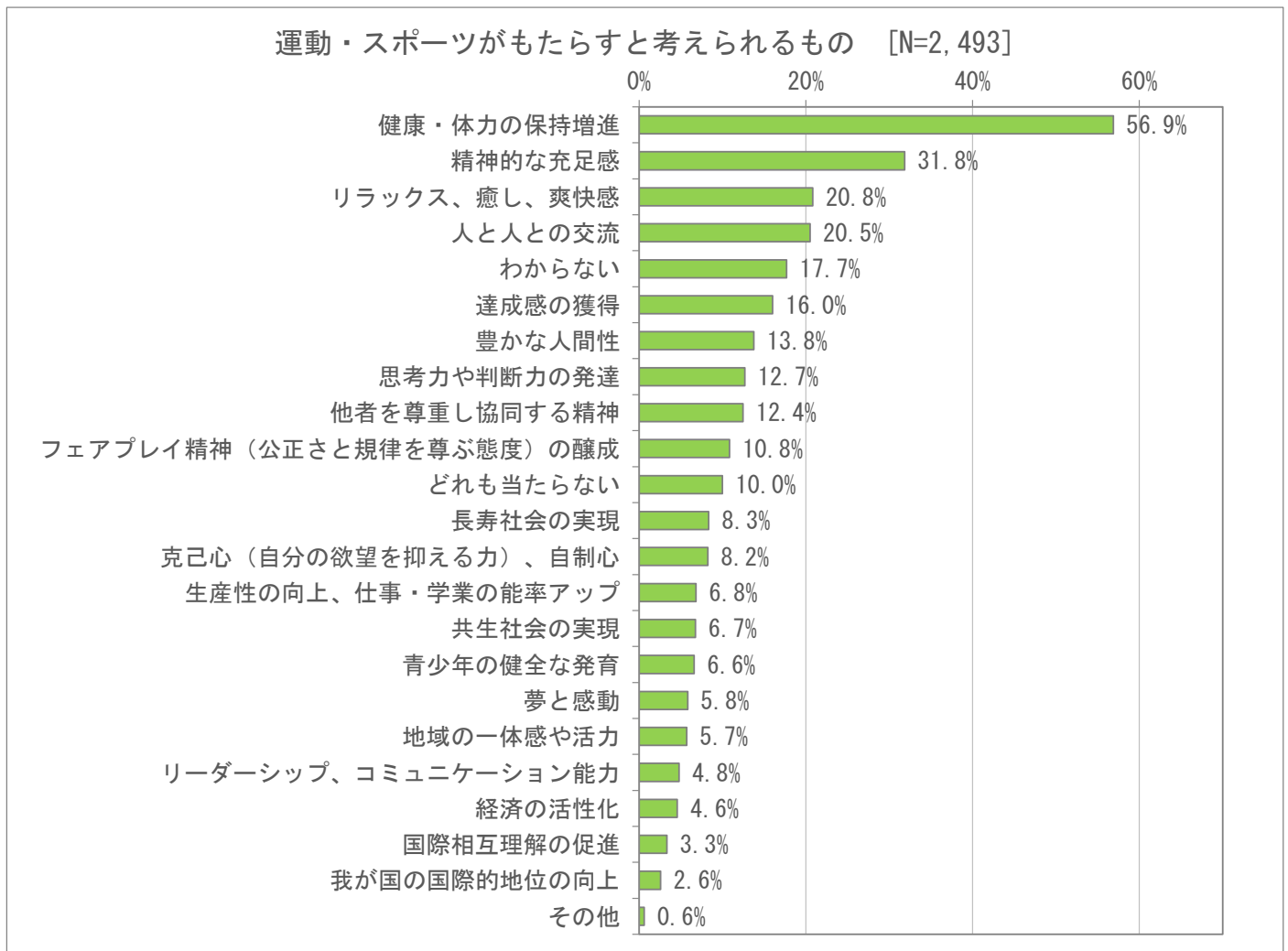
6 障害のない人との運動・スポーツの経験

過去1年間に、障害のない人と運動・スポーツを経験したことがある割合は24.7%であった。一緒に運動・スポーツをした障害のない人については、「友人（40.7%）」、「家族（38.0%）」、「クラブ・サークル等の仲間（31.5%）」の割合が特に高かった。



7 運動・スポーツがもたらすと考えられるもの

運動・スポーツが何をもたらすと考えられるかについては、「健康・体力の保持増進（56.9%）」が最も高く、「精神的な充足感（31.8%）」、「リラックス、癒し、爽快感（20.8%）」、「人と人との交流（20.5%）」の順となっていた。



※運動・スポーツへの意識に関わる設問のため、対象を回答者が障害児・者本人の場合のみに限定した。